

次代への軌跡

-series.85-

[ジー・エス・エル・ジャパン]

主要穀物の高騰という全世界的な潮流の中で、タイ産のタピオカ芋からとれるでんぷんの輸入販売・技術サービスを展開するジー・エス・エル・ジャパンの和田洋人社長は、中間業者を省いたダイレクトな流通システムを確立。良質な原材料をより安価で迅速に顧客に供給することに成功している。

タピオカというと食用の印象が強いが、同社は工業用、特に製紙業界向けにタピオカでんぷんを供給。印刷の際の負荷に耐える紙の増強剤としてでんぷんが活用されている。

和田社長は、貿易商社の輸入担当として世界各国の顧客開発業務に携わり、1998年に外資系メーカーに転職。新規事業としてタピオカでんぷん製品を取り扱い、短期間で年商5億円の事業として成長させた後、タイのジェネラル・スターチ・リミテッド（GSL）社の日本法人として2004年11月に同社の設立に至る。

タイの現地生産者とは10年前の勤務時代に和田社長自身が足で開拓して以来の関係。こうした取引先との良好な関係は、同社長の人との繋がりを大切にする姿勢によるところ

が大きい。

また、供給先のメーカーに対しても和田社長自ら試験場に出向き、水質・パルプ原料などその場の環境に合わせた紙の品質テストを行い、そのデータを提供することで自社製品の信頼性を高めている。

食品分野へも積極展開 新たな若手人材の採用に意欲

食の安心・安全が問われる中、タピオカ芋はNonGMO（非遺伝子組み換え食品）ということもあって、その由来のでんぷんの食品への応用展開が期待されている。タイ本社は確かな産地かつ品質の安定した新鮮な芋原料を確保し、日産600トンのでんぷんの生産を継続的に実施。

日本への輸入で07年に2万1000トンの実績を持つ同社は、今後はサスティナビリティ（持続可能性）とトレーサビリティ（生産履歴追跡）に配慮し食品分野も開拓する構えだ。

スタッフは社長を含め2名。07年12月期は売上高12億5000万円に対して08年12月期は17億円を見込む。さらなる業容拡大に向け、自己完結型のプロフェッショナルを目指す若手社員を募集している。



和田 洋人 社長

住所＝東京都港区港南4-1-6
ビュロー品川211
☎03-5462-7053
ホームページ＝
<http://www.gsljapan.com>